

報道関係者各位

2009年2月9日

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス、 ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)測定用試薬「ケミルミ BNP」を発売

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社(東京都品川区東五反田、社長 コン・グリラキス)は、2009年2月11日、化学発光免疫測定装置ケミルミ ADVIA Centaur(ケンタウルス)シリーズの専用試薬「ケミルミ BNP」を発売します。

ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)は、心負荷により心臓から分泌されるペプチドホルモンです。血中 BNP 濃度は心機能をよく反映し、心不全の診断、病態把握、予後予測に極めて有用な指標として世界中で広く臨床応用されています。また、血中 BNP 測定は血液検査により心機能変化を定量的に捉えることの出来る唯一の検査であり、循環器専門病院をはじめ一般病院や診療所、検診・人間ドックなどにおいても需要が拡大しております。

弊社は塩野義製薬株式会社(大阪府大阪市中央区道修町、社長 手代木 功)と、塩野義製薬が所有するBNP関連特許の国内実施許諾契約を締結し、「ケミルミBNP」の発売に至りました。今後は「BNP」をイムノアッセイビジネスにおける主軸のひとつと位置づけ、既に発売している心筋マーカー(トロポニンI/ウルトラ、CK-MB、ミオグロビン)及び現在開発中の心筋マーカーと共に心疾患領域へ注力して参ります。心疾患は日本人における主な死因第二位(*)であり、心疾患領域へ注力することにより、これまで以上に多くの人々の健康並びに医療へ貢献出来ると確信しております。

<お問い合わせ先>:

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
マーケティング&コーポレートコミュニケーション
川島 香織
TEL: (03) 5423-8783 FAX: (03) 5420-2420
Email: kaori.kawashima@siemens.com

(*)[参考資料]

厚生労働省人口動態統計(平成19年)によると心疾患は昭和60年以来日本人における主な死因第2位であり、平成19年の全死亡者の約16%に当たります。心疾患のうち、約32%が心不全、約28%が急性心筋梗塞によるものであり、心不全はあらゆる心疾患の終末像とも言われています。急性心筋梗塞の診断には主に心電図、胸部X線、心エコー、CT、MRI、冠動脈造影、心臓核医学検査、血液検査(心筋トロポニン、CK-MB、ミオグロビン)などが用いられ、心不全の診断には主に心電図、胸部X線、心エコー、CT、MRI、冠動脈造影、心臓核医学検査、血液検査(BNP/NT-proBNP)などが用いられます。シーメンスグループでは、これらの画像技術(in vivo: 生体内診断)と検体検査(in vitro: 体外診断)を組み合わせることにより、心疾患領域における診断へ総合的に貢献します。

1/2

※ 上記の斜体の部分がシーメンスグループの商品群です。

■シーメンスヘルスケアセクターについて

シーメンス AG の 3 つのセクターのひとつであるシーメンスヘルスケアセクターは、ヘルスケア産業における世界最大のサプライヤのひとつです。また、情報技術とシステム統合を含む知識工学ならびに診断・治療技術において、革新的強さを備えた医療のソリューションプロバイダでもあります。検体検査事業の買収により、シーメンスヘルスケアは、画像診断、検体検査、治療、ヘルスケア IT ソリューションからコンサルティング、サービスサポートまですべてを網羅する総合的サービスを提供する初めての総合医療診断企業となりました。予防、早期発見、診断、治療、ケアのためのヘルスケア全体のソリューションを提供しています。また、革新的な補聴器でも世界市場のリーダーです。シーメンスヘルスケアは世界に 4 万 9000 人以上の従業員を擁し、130 以上の国で活動しています。シーメンスヘルスケアの 2008 年度 (9 月 30 日終了) の売上高は 112 億ユーロ、受注高は 118 億ユーロ、グループ全体の利益は 12 億ユーロでした。

■シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクスについて

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクスは、バイエル診断薬事業部とダイアグノスティック・プロダクツ・コーポレーションおよびデイド ベーリングの統合により誕生した事業体です。これにより体外診断における幅広い検査製品が一堂に揃うことになり、2007 年 11 月時点で世界最大の体外診断薬企業となりました。

このプレスリリースには、過去の出来事ではなく、将来の業績に関する見通しや情報が含まれています。「期待する」、「予想する」、「意図する」、「計画する」、「信じる」、「模索する」、「推定する」、「予定する」といった言葉やその類義語は、将来の業績に関する見通しに該当する可能性があります。こうした見通しは、当社の現時点での予測と一定の前提に基づいており、したがって、特定のリスクや不確実な要素に左右されることがあります。シーメンスの事業活動、事業戦略、業績に影響を及ぼす要素はさまざま、その多くはシーメンスには制御不可能なものです。そのため、シーメンスグループの実際の業績、活動、成果は、こうした将来の業績に関する見通しの記述や暗示とは大きく異なる可能性があります。特定の不確実な要素には、景気や取引状況の変化、為替動向や金利の変化、他社による競合製品・技術の導入、シーメンスグループの新しい製品・サービスの不振、事業戦略の変化やその他のさまざまな要素の変化などが含まれます。一部の要素の詳細については、シーメンスが米国証券取引委員会 (SEC) へ提出した資料に含まれており、シーメンスのホームページ (www.siemens.com) や SEC のホームページ (www.sec.gov) でご覧いただけます。万一、これらのリスクや不確実な要素が現実のものになれば、実際の業績は将来の業績の見通しの予想、確信、予測、期待、意図、計画、予測とは大きく異なる可能性があります。シーメンスは、将来の業績に関する見通しの作成後に発生する出来事に照らして見通しを更新、修正する意図はなく、またそうした義務を負うものではありません。